

夏休みが明けて

9月1日（火）、45日間の長い夏休みが明けて、学校が再開しました。久しぶりに登校してくる子供たちを校門前で迎え、あいさつをすると、ひとまわり大きく成長した子供たちが元気にあいさつを返してくれました。

夏休み期間中は、おかげさまで大きな事故やけが・病気の連絡はなく、子供たちは楽しい夏休みを過ごせたようで安心しました。ご家庭と地域の皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。

今年の夏休みは昨年ほどの猛暑ではなかったものの、大きな災害に見舞われた夏でした。夏休みに入って早々の7月28日夕方、九州の熊本で最大震度7の大きな地震がありました。また8月23日には、茨城県南部を震源とする地震もありました。この小田原市は震度3とのことでしたが、午前2時という時間帯に突然揺れたので、驚いて跳び起きた子供たちも多くいたようでした。

そのほかにも、前線や線状降水帯、台風などによる大雨が各地で猛威をふるい、多くの被害をもたらしました。

様々な災害が、いつどこで起こっても不思議ではない時代になってきてしまっていますが、学校は常に子供たちにとって「安全な学びの場」「夢を実現するための成長の場」であり続けるよう、9月からもしっかりと防災・防犯対策に取り組んでまいります。引き続き、ご支援・ご協力いただきますようお願いいたします。

夏休みのできごとなどについて話す子供たち



シェイクアウト訓練

登校再開初日、朝会を放送で行いました。

夏休みに入る前に子供たちに伝えた「夏休みの過ごし方（注意事項）」の振り返りをした後、「防災の日」にちなんで、関東大震災の話をしました。

当時の資料から、この曾我地区でも多くの家が一瞬でつぶれてしまったこと、曾我山の木々も倒れ、えぐられるように山肌が露出してしまったことなど、被害の大きさ・恐ろしさを、子供たちにわかりやすい言葉で伝えました。100年以上前の話ですが、過去の話として終わらせるのではなく、万が一に備えて、防災意識を高める機会にしたいと思います。

そして、その後11時ごろから、さっそく「シェイクアウト訓練」を行いました。「訓練、訓練」と放送が校舎内に響き渡りました。驚いた子供もいましたが、みんなしっかりと机の下に隠れて、頭を守る体勢をとることができていました。

児童代表委員会

夏休みが明けて3日目の9月3日（木）。長昼休みの時間に代表委員会が開かれました。議題は『運動会を盛り上げよう』でした。スポーツ委員会が中心になって提案し、運動会の「応援団」「スローガン」「なかよし班種目」などについて話し合われました。



夏休み明け初日に学級担任から「運動会は10月17日（土）です。あまり時間がないので、計画的に

準備をしていきましょう。」と声をかけられたため、子供たちは一気に「夏休みモード」から「運動会モード」に切り替わったようでした。この日の話し合いも、「どうすれば全校が楽しめるものになるか」を、一生懸命話し合っていました。

忙しくも、楽しく充実した活動の時期がやってきました。1年生にとっては小学校生活初めての運動会。6年生にとっては小学校生活最後の運動会。それぞれの子供にとって、思い出に残る活動になってほしいと願っています。



道徳朝会

9月8日（火） 朝の時間

全校が音楽室に集まって「道徳朝会」を行いました。道徳教育推進担当の教員から、プロジェクターを使って自作の話を提示しました。

今回の話は「低学年が廊下にこぼした水筒の水に気付かずに行ってしまった場面を高学年の主人公が見かけ、自分が拭いてあげるか、友達から急ぐよう促されるまま（自分の授業に遅れないように）拭かずにそのまま自分の教室に戻るかで葛藤する」というものでした。ここまで提示した後、子供たちは自分の教室に戻り、1校時目を使ってクラスごとに、この続きの授業をしていきました。

学年・発達段階によってそれぞれ話し合いの視点や深さは違ってきますが、子供たちは自分なりに「自分だったらどうするかな?」「どうするのがいいのかな?」と真剣に考えていました。



不審者を想定した防犯訓練

9月8日（火） 3校時

不審者対応の防犯訓練を行いました。不審者が校内に侵入してきた場合を想定して、教室側からの施錠のしかたや退避行動の確認をした後、小田原警察署のスクールサポーターのかたに講話をしていただきました。お話の中で、不審者案件は小田原署管

内で年間約200件もあることなどを聞いて、子供たちは、とても驚いていました。

全校で防犯意識を高める、とてもよい機会になりました。



竿運び・竿組み

9月14日（月） 5校時

4, 5年生が、稲刈りの準備をしました。校舎裏に置いてある長い竹竿とそれを支える三脚（鉄パイプ）を、どろんこ田まで何往復もしながら運びました。これは、稲刈りをした後に稲束をすぐに干せるよう、物干し場のような台を組んでおくための大切な作業です。

ようやく太陽が顔をのぞかせたこの日の午後。4, 5年生合わせて18名が、わずか30分足らずで竹竿20本近くと三脚40脚近くを、あっという間に運んでいました。前向きに取り組む頼もしい姿が見られて、とてもうれしかったです。

放課後には職員総出で竿を組み立てて、たくさんの稲束が干せるように、準備を整えました。今年もこの竿に干しきれないほどの豊作となることを祈っています。

